

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	地域食育推進事業		
部 局 名	健康福祉局	課(室)名	保健センター
		電話番号	087-839-2363

【事業全体概要】まちづくりの目標：健やかにいきいきと暮らせるまち

総合計画	政 策	健やかに暮らせる環境づくり		主 体	市	
	施 策	健やかに暮らすための健康づくり		期 間	平成 20年度～平成 27年度	
	基本事業	食育の推進		総事業費	270,096	
重点取組項目				特 定 財 源	国	1,298
関連根拠法令等					県	
事業区分	自治事務	種 別	事中・事後	市債		
事業種類	単独			他	641	
				一 般	268,157	

事業の概要
 近年、食を大切にする意識が希薄になり、健全な食生活が失われつつあることから、個人だけでなく地域や社会をあげて食育に取り組み、健全な食生活を実践する人間を育てることが必要となっているため、食育の推進に取り組むもの
 野菜摂取量増加へ向けた取組を、たかまつ野菜たっぷり生活プロジェクトと題して実施
 地域で健康づくりや食育推進の活動をする高松市食生活改善推進協議会の育成・支援
 「食」の大切さを伝えるフードスタート運動の実施等

【事業の目的と指標】

対象	高松市民	対象指標名	高松市民
手段	食育推進事業の実施 食生活改善推進員の育成及び協議会活動の支援 フードスタート運動事業の実施	活動指標名	伝達講習会開催回数
意図	「食育」への関心度を高め、地域や社会をあげて食育に取り組む。	成果指標名	食育に関心をもつ人の割合 伝達講習会参加者数
結果	食生活の改善及び健康の増進	効率指標名	トータルコスト10万円当たりの伝達講習会開催回数

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標	人	426,000	427,000	427,000	409,000	平成 27年度
活動指標	回	150	152	150	170	
成果指標	%	83.7	83.9	81	90	
	人	2,605	2,462	2,450	2,900	
効率指標	回 / 1	6.5	4.3	3.4	4.5	
トータルコスト	[千円]	30,336	33,351	31,005		
(事業費)	[千円]	4,272	3,827	3,368		
(職員人件費)	[千円]	26,064	29,524	27,637		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
ライフスタイルの多様化に伴い、食を大切にする意識が希薄になり、健全な食生活が失われつつある。	朝食の欠食率が減少していない等の現状から、実践に結びついていないことが考えられる。また、食生活の改善を推進するためには、食に対する意識や、食育への関心を高めることも必要である。	食に対する意識や食育への関心を、ますます高めていくことや、実践に結びつけていくことは難しく、市による関与が必要である。	食育の関心を高めたり、食生活改善の実践に結びつけるために、より多くの市民が気軽に取り組める事業の検討。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か A 法令等により市が実施しなければならない 法令等により、市による実施が妥当である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか A 貢献度が大きい 食育は健康づくりにつながる取組みである。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか B 必要性は中程度 食育の啓発を推進する対象者の見直し
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか A 影響は大きい 食生活の改善や健康の増進に影響を与える。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか） D 事業について情報提供している 連携の実施はなかった。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか B 向上余地が考えられる（中小程度） 向上の余地はあると考えられる。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか） A 実施済み / 実施する必要がなかった 新規の事業展開を実施し、広域的な食育の推進を図った。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか C 概ね達成できた 食育の関心度は前年度に比べて若干減少したものの、80%以上の高い関心度である。 伝達講習会参加者数については、前年度に比べて減少している。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか C 概ね達成できた 活動指標はほぼ横ばいである。
10. コスト縮減ができたか B 縮減できた 必要経費について再度検討した。

【一次評価】

評価区分	継続																						
社会をあげて食育に取り組むためには、多様な事業が必要であり、また、食生活の改善のためには、食育への関心を高めるための方策や、実践に結びつけていくためのより効果的な啓発方法等を検討していく必要がある。																							
改革案																							
内容	阻害要因																						
期待効果																							
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

【二次評価】

評価区分	継続
食育の推進・啓発方法を工夫し、特定の食物、例えば、昨年度から野菜の摂取をテーマに取り組を進めており、今後、その成果の検証と評価が必要である。	